



インターナショナル新書

10月7日(木) 発売!

ジェンダー
『新書版 性差の日本史』

国立歴史民俗博物館 監修

「性差の日本史」展示プロジェクト 編

定価: 924 円(税込)

体裁: 新書判 / 224 ページ

発行: 集英社インターナショナル(発売: 集英社)

ISBN: 978-4-7976-8083-6



日本の歴史のなかで

「男」と「女」という区分は、
いつ生まれ、どのように変化したのか?

2020年秋、国立歴史民俗博物館で開催され、注目を集めた「性差の日本史」展の内容をダイジェスト。展示の見所を解説した、読みやすい新書にしました。

古代から現代までのジェンダーを示す貴重な資料 130 点の図版を掲載。

執筆は第一線で活躍する歴史研究者たちによるものです。

ジェンダーの入門書として、まずは読んで頂きたい 1 冊です。

日本のジェンダー1800年の旅へー

古代卑弥呼の時代から、現代のコンピューターと女性の関わりまで、日本のジェンダー1800年の歴史を豊富な資料から読み解いていきます。最近よく耳にする「ジェンダー」とは何なのかを歴史的に知りたい、確かな資料をもとにジェンダーについて考えてみたい、そんな方におすすめです。

歴史資料が読み変わる、驚きと楽しさが本書にはあります！

『魏志倭人伝』に書かれていた言葉は——「男女の別なし」

古代の日本では、あまり男女の区分はなかった？

「女性首長」が埋葬されている古墳もあり、古代日本には女性リーダーが確かに存在した。

呪術を使う巫女のイメージが作られたのは明治時代！

「義経直筆の手紙」その宛先は——超セレブな女性

歴史上の有名人の直筆の手紙、でも内容をよく見ると、宛先は莫大な荘園を所有する女性。武家にも政治的な影響力を持っていた女性がいました。

一家を率いるゴッドマザー「後家尼」

中世では、夫の死後に家父長権を受け継いだ妻が

「尼」となって家を統率する例もよく見られます。

女性にも財産権が認められていたわけです。



中世のゴッドマザー「後家尼」とともに清水寺に参詣する一行（画像は「東山名所図屏風」の部分トレース）

じゃあ、いつから「男」「女」が社会的に分けられるようになったのか…

律令制の運用によって？ 仏教の五障三従が、女性差別を広めた？ 明治政府が制度化した？

監修：国立歴史民俗博物館 千葉県佐倉市の佐倉城址にある、日本の歴史と文化について総合的に展示する博物館。通称、歴博。「大学共同利用機関」として、歴史学・考古学・民俗学と関連諸科学の連携による共同研究を行ない、その成果を展示や出版物などで広く公開している。2020年秋に開催された企画展示「性差の日本史」は、2016年から3年間かけて行われた共同研究の成果を発表したものだ。

横山百合子

「性差の日本史」展示プロジェクト代表。1956年生まれ。国立歴史民俗博物館名誉教授。専攻、日本近世史。著書に『江戸東京の明治維新』（岩波新書）など。

※ぜひ貴媒体にてご紹介をいただけますと幸いです。

書影、著者インタビュー等、以下までお気軽にお問い合わせください。

【本書のお問い合わせ・取材申込先】

編集担当：集英社インターナショナル

電話 03-5211-2630

公式サイト <https://www.shueisha-int.co.jp/>